



歴史が息づく。



未来が芽吹く。



市制施行70周年企画「武蔵府中」×「備後府中」



両市をつなぐ「国府」

「府中市」の名前の由来となっている「国府」とは

今から約1300年前、日本は約60の国に分かれており、現在の東京都府中市には、「武蔵国」の国府が、広島県府中市には、「備後国」の国府が置られました。「国府」とは、その国を治めた役所群と、その周囲にある役人の仕事場、住まい等の施設を含めた総称で、奈良時代から平安時代までの約500年にわたり、その地方の政治・経済の拠点として栄え、それぞれの「府中市」に暮らす私たちの歴史的な原点や背景となっています。

今回は、両市に共通する「国府」をテーマとし、広島県府中市役所の文化財担当の方より「備後国府」についてご紹介いただきました。

図政策課 ☎335-4010



◀市のHPでも
紹介して
います



備後国府
マスコットキャラクター
国府まろくん

広島県府中市の国府「備後国府」

飛鳥時代の終わり(七世紀末)に「吉備」という地方国家の大きなまとまりが「備前」・「備中」・「備後」に分けられ、備後国は誕生しました。備後国は、現在の広島県の東部に当たります。

40年以上にわたる発掘調査成果の蓄積によって、中心市街地の北西部の範囲に国府関連の遺構や遺物が発見され、平成28年に一部が国史跡に指定されました。その発掘調査では、奈良時代から平安時代にかけて都と大宰府を結ぶ重要な幹線道であった古代山陽道と備後国府中心部へ向かう道の分岐点が見つかり、現在、その場所は「はじまりの広場」として公開され、歴史を感じられる広場となっています。

東京都府中市や広島県府中市ばかりでなく、全国にある「国府」や「府中」が地域や人をつなぎ、共感しあえる背景として親しんでもらえればうれしいです。ぜひ、広島県府中市の「備後国府」を探索しに来てください。



◀史跡「備後国府跡」
に関する詳細は
こちら



▲古代山陽道分岐点付近からみた備後国府跡の
想像図(絵:早川和子)